

令和元年度第1回第6次碧南市総合計画審議会

議事要旨

日時	令和元年9月17日(火) 午後1時30分～午後2時36分	
場所	碧南市役所 2階 会議室4・5	
出席者 ■出席 □欠席	審議会 委員	<p>■禰宜田市長</p> <p>■鈴木並生委員 ■石川和昌委員 □鈴木泰博委員</p> <p>■石川鋼逸委員 ■河原委員 ■鈴木たか子委員</p> <p>■禰宜田委員 ■長田和久委員 ■水野委員</p> <p>■奥村委員 ■齋藤委員 ■鈴木康伸委員</p> <p>□比嘉委員 ■加藤委員 □平松委員</p> <p>■岩瀬委員 ■長田良次委員 ■榊原健委員</p> <p>■永坂委員 ■原田委員 ■金原委員</p> <p>■中根委員 ■竹原委員 ■榊原由太郎委員</p> <p>■森下委員 ■永井委員 ■杉浦委員</p> <p>■柴田委員 ■長田あすみ委員</p> <p>□石井拓顧問 ■岩崎顧問兼助言者</p>
	事務局	金沢総務部長、生田経営企画課長、中川経営企画課長補佐兼政策推進係長、小林主査、鈴木主事
傍聴者	0名	
次第	<p>1 市民憲章唱和</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 委員の任命及び顧問・助言者の紹介</p> <p>4 会長の指名</p> <p>5 会長あいさつ</p> <p>6 第6次碧南市総合計画の諮問</p> <p>7 議題</p> <p> (1) 副会長の指名</p> <p> (2) 第5次総合計画の進捗状況</p> <p> (3) 各アンケート結果</p> <p> (4) 第6次総合計画の策定</p> <p>8 その他</p> <p> (1) 分科会</p> <p> (2) 次回審議会</p>	
市民憲章唱和	○碧南市連絡委員幹事会代表幹事 石川委員の先導のより唱和	

2 市長あいさつ	<p>○市長よりあいさつ</p> <p>現在の第5次碧南市総合計画は平成22年度に策定しており、市民協働がテーマだったが、市民協働の精神は碧南市のまちづくりを進めていく上での基本原則となるものである。このため、平成25年3月に、碧南市協働のまちづくりに関する基本条例をつくり、市民協働を推進している。現在の計画は令和2年度で契約期間が満了するため新しい総合計画として第6次総合計画を策定する。総合計画は最上位に位置付けられ、市行政運営の指針となる計画のため、今後10年から20年を見据えていただきながら忌憚ないご意見を頂戴し、新しい計画に反映させていきたい。</p>
3 委員の任命及び顧問・助言者の紹介	<p>○各委員から名簿順により自己紹介</p>
4 会長の指名	<p>○碧南市商工会議所会頭 鈴木並生 委員を会長に指名</p>
5 会長あいさつ	<p>○会長よりあいさつ</p> <p>ただいま第6次碧南市総合計画審議会の会長という大役を仰せつかりました碧南商工会議所会頭の鈴木でございます。</p> <p>各団体の代表の皆様、市民公募の皆様、計29名と、お2人の顧問のお力をお借りしまして、新しい総合計画を作ることとなりますので、皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。</p> <p>第6次の総合計画は、今後10年間の碧南市の将来を見据えたまちづくりの基本統計基本指針となる計画であり、その10年後の姿を土台に、20年後30年後の碧南市があるため、大変重要な計画だと認識しております。</p> <p>昨年、市制70周年を迎えましたが、今までの経験や実績から、次の10年を予測することができた時代ではなかったかと思いますが、これからは今まで経験したことない人口減少という時代に入り、少子高齢化がますます進み、団塊の世代が2025年に75歳を迎えるという問題があります。</p> <p>企業の人手不足感は一層深刻になり、外国人労働者に頼らざるをえない状況が今以上に進むと思われまます。</p> <p>現在、碧南市の人口は7万3000人で、うち、7%の5000の方が外国人であると聞いております。外国人の方と、どのように、共存共栄を図るのか、その対応は喫緊の課題であり、重要な政策の一つとも思われまます。</p> <p>それ以外にも、当市の課題は数多くありますので、皆様の忌憚のない活発なご意見をいただき、住みやすい暮らしやすい碧南市となるための総合計画を策定して参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
6 第6次総合計画の策定	<p>○市長から諮問を読み上げ、会長へ手渡し</p>
7 議題	<p>○会長により進行、事務局から資料説明</p>

7 議題

○岩崎顧問兼助言者からの助言

私は地方自治を勉強しておりますが、だいぶ前からこの碧南市に協働を中心に関わらせていただいております。今回も助言者兼顧問という形で、この会議に参加することを大変うれしく思っております。

今日初めて体験しました会議録自動作成システムについては、他自治体に先駆け先端的に導入しているところが、碧南のいいところであります。

これからの10年を見据えたときに、一番大きな課題になってくるのはもちろん、人口の少子高齢化ですが、これを機械でどう置き換えるかというのも一つ大きな課題であり、市役所、住民との関係が機械化されていくのはこの10年間の大きな流れだと思えます。

ただ、すべて機械に任せるということではなく、碧南市役所は、住民のために存在してるわけですので、住民のどこの部分を支援する必要があるのかということと、住民の役割をどう考えるかというところが、新しい総合計画の基本線を構成することになるだろうと思っております。

この子育て世代のウェブアンケートはとても面白いと思えました。言ってみれば他の近隣の自治体も一番この年代の人たちが何を考えてるかを知りたいわけですし、ピンポイントでその人たちに質問をして、回答集計して、それで近隣の各市との差を調べています。このようなマーケティング調査から碧南市は他市に対抗する施策を打ち出しやすくなります。なぜこんなことをやる必要があるのかというと、人口奪戦が始まっているからであります。

オールジャパンでいうと、人口はもう激減しています。2005年に、日本人の人口はピークを迎え、そして2010年の国勢調査で日本人と外国人を合わせた、日本の総人口はピークを迎えたと言われてます。今年の4月以降、入管法が大きく改正され、外国の方々の増加により碧南がどう変わっていくかが大きなポイントになるだろうと思えます。外国の方もみなさんと同じ碧南の住民であり、行政サービスを受ける権利があります。外国の方ももちろん税金を払っています。しかしその一方で、参政権はありません。そういう外国の方と我々はどのように仲良くしていくか。災害時には言葉がわからない人たちと、どのように避難をしていけばいいんだろうか。こういったこともこの10年で起こることは十分あるだろうと思えます。

2050年の段階では、今より3000万人、日本の人口は減ると言われています。31年後です。私が普段、普段つき合っている学生20歳の学生からしてみると、31年後は51歳です。彼らが50歳という社会の中堅になるときに、日本の総人口は、今より3000万に減り、国民の3人に1人ぐらいが65歳以上という社会になる予測がされています。

人口が一番多い時期を現役世代として迎えた我々がやらなければいけないことは人口増加で作りに上げてきた仕組みを見直して、次の世代にバトンを渡すことが大切であり、大きな課題であると思っております。

これまでの市民と市役所、行政との関係というのは、市民は、あれもやってくれるだろうこれもやってくれるだろうという形で市役所のお願いをしてきて、そして市役所もそれをやりましようと言って、いろんな仕事を増やしてきています。

	<p>これからは市役所が市役所しかできないことを第6次には重点的にやってもらいべきだろうと僕は思っています。そしてそれを支える市民がやらなければいけないことも、この第6次の中にあれば良いと思っています。</p> <p>何かをやりたいと思っている地域のお母さんや元気なお年寄りの方々に、通勤時間0のこの碧南の中でいろんな活動をしてもらえるような、そんな仕組みがあるといいとも思います。</p> <p>そしてそれを支える一つの考え方が、機械化という意味からいうとSociety 5.0が目指す社会、それからもう一つ、計画策定の背景のところからいうと、SDGsだろうと思います。SDGsとは国連の持続可能な17個の目標ですが、この基本的理念が連携と誰1人取り残さないというであります。</p> <p>このような時代背景の中で、皆さん方が興味があって、これからの10年の間に自分たちも何かできそうだと考えていただけることが重要だと思っています。</p> <p>市役所がこれをやってくれれば良いなどというだけではなく、自分たちが解決のためになにができるかということを観点に総合計画の分科会にご参加をいただければと思っています。</p> <p>これから策定まで長丁場になりますけれど、次の世代に引き継ぐための総合計画ということ意識ご協力いただければと思います。</p>
7 議題	○会長により進行、事務局から資料説明
質疑応答	
委員	○第5次成果等目標達成の進捗状況の目標値というのは、どういった形で目標値が設定されたか、また、第6次を策定するにあたってこの目標値を我々が設定する必要があるのか伺いたい。
事務局	○第5次の目標値の設定方法は、策定当時の状況の値からそれぞれの担当課が10年後の理想値として設定した。第6次については、細かい設定をする予定はなく、大きなイメージとして第6次として設定した内容が進んでいると分かる指標みたいなものを委員のみなさんから意見と頂戴しながら設けていきたい。
委員	○前回の第5次から第6次に向けて目標人口が2000人減っている。それに対してどういうアクションをとっていくのかお尋ねしたい。
事務局	○第5次においても人口が減少基調にあるとは認識していたが、総合計画で人口減少を目標にするのではなく、やはり増加を目指したいと思いがあつた。今回も北部において工業用地を整備し、企業を誘致することで、外国人も含めて働く場を増やすなどの取り組みを行い、75000人まで人口を増やしたいという思いはあるためご理解いただきたい。
8 その他	○分科会及び次回の日程について事務局より説明
質疑応答	
委員	○最終的に審議会がどう関わっていくのか伺いたい。
事務局	○令和2年12月の市議会が最終目標となる。そのほか、パブリックコメントを7月か8月に実施し、9月の審議会最終案として市長に答申する予定。